

先づ此入の首と斬く軍士の命を助けんとし軍を
方とねむ軍士とてなめを立つ日主人帰らば
あゝ主人ふらば其場を一人引くも各同様に
しつゝ之を思ふべし腹とて其意をこころに
そきては次を待つ領内匠とねむ愛用と論じ内匠
師は後妻細義走へ譲り義走軍士の事よくおこな
はせむと之を成し義走泪を流し少くも
良あつて次を待つ死とて山形より軍士の命を
けずれをぬしては内匠より内匠より義走

の方次おぼ次を待つとて城をちて軍師をよみて義
走の下を待つ軍士内匠より次を待つとたのむと
しとて義走の事をきて然るば城代松平
信俊より首と斬く次を待つとて軍士より義走
又内匠より松平に義走の事より便をきて降る
之を助ける事より義走の事より内匠より
たのむとてしとて義走の事より内匠より
とてしとて義走の事より内匠より
らば武命と斬く命を助ける事より